

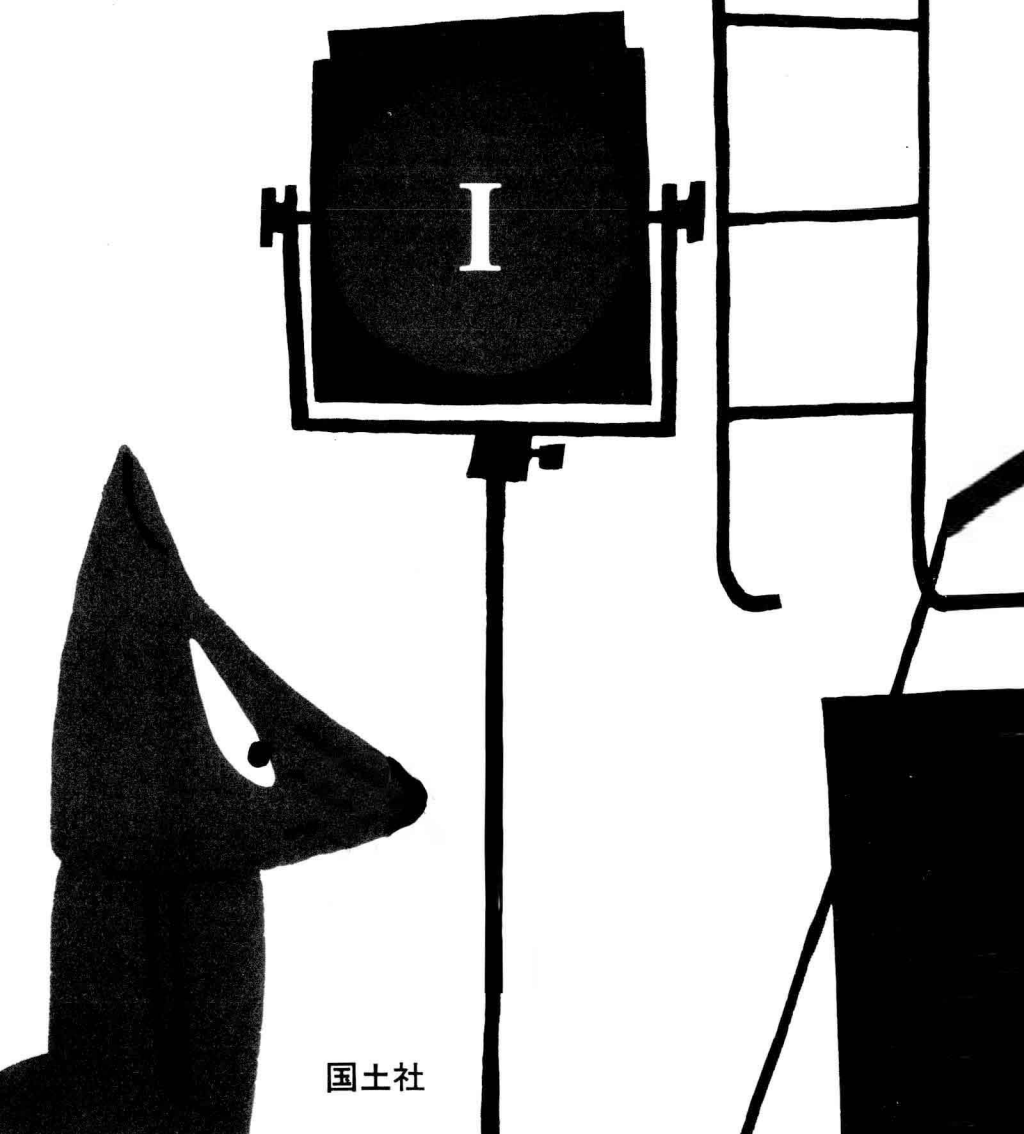
子どもの人形劇集

I



日本演劇教育連盟編

子どもの人形劇集



国土社

日本演劇教育連盟

子どもの人形劇集 I

国土社 1975

222p 22cm

内容：ぞうのはなはなぜながい（藤田圭雄作），他11編

基本カード記載例

■日本演劇教育連盟

1937年に創設され，はじめ日本学校劇連盟と称したが，
1959年に現在の名に改称された。幼稚園から小，中，高
等学校までの教師，および児童演劇，サークル演劇の活
動家，学生によって組織される演劇教育の自主的研究団
体。月刊の機関誌「演劇と教育」を発行。

・会長 菊田 要・事務局 〒171 東京都豊島区池袋2-3
電話 03 (984) 4625

子どもの人形劇集 I

初版発行／1970年10月25日

6版発行／1975年6月10日

検印廃止

編者／日本演劇教育連盟

発行者／長宗泰造

印刷所／株式会社厚德社

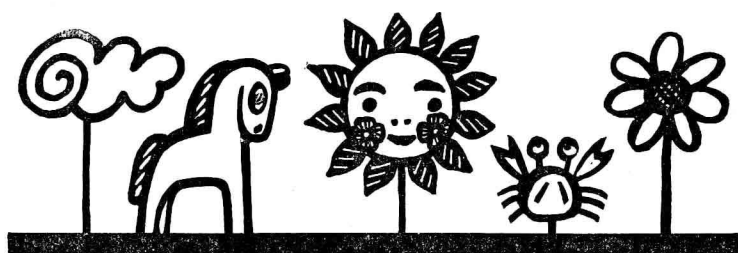
発行所／株式会社国土社

東京都文京区目白台1-17-6（〒 112）

電話（943）3721（代表）

振替／東京90631番

乱丁・落丁の本はおとりかえいたします



人形劇のたのしさがわすれられ なくなったひとたちのために

男の子も女の子も、人形をつくったり、人形を動かしてあそぶことは大すきです。人形劇は、その人形あそびを發展させ、おもしろくしたものといつてよいでしょう。

おとなになって、いろいろなそがしくなると、人々は人形であそぶことをわすれますが、人形劇を見たり、やったりすると、また、小さいときのことを思い出して、人形をつくったり人形を動かしたりすることが、たまらなくおもしろくなります。そして、こんどは、そのたのしさが、一生わすれられなくなります。

人形劇のたのしさがわすれられなくなった少し大きな子どもたちと、そして、子どもたちのところへ、このたのしさをおくりとどけたいとねがっているおとなたちのために、この人形劇集をつくりました。



もくじ

ぞうのはなはなぜながいへ一幕	藤田圭雄…五
・時間〓約12分	・人形〓動物6
・〈付〉楽譜	
竹の子どろぼうへかげえ劇	小林達夫…七
・時間〓約10分	・人形〓6
もずときつねへ一幕	勝尾金弥…五
・時間〓約12分	・人形〓3
あぶないうさぎどんへ一場	小池タミ子…三
・時間〓約10分	・人形〓4
王仙人ものがたりへ三幕	粉川光一…四
・時間〓約17分	・人形〓4



海のシロホンへ一幕……………森田博…三

・時間Ⅱ約20分 ・人形Ⅱ8 ・〈付〉楽譜

大入道小僧―グリム童話から―六場……………富田博之…六

・時間Ⅱ約30分 ・人形Ⅱ6、ほか ・〈付〉楽譜

みどりのしっぽへ一幕……………エム・ポリワノフ
渡辺元訳…六

・時間Ⅱ約35分 ・人形Ⅱ6

とらのこもりうた―立原えりかの童話より―一幕……………川尻泰司…二

・時間Ⅱ約40分 ・人形Ⅱ動物10、ほか

にわとり長者 六景……………須田輪太郎…二三

・時間Ⅱ約60分 ・人形Ⅱ9、ほか ・〈付〉楽譜

まほうのながつ 童話劇 二幕……………グリゴリー・マトヴェイエフ
大井数雄訳…三

・時間Ⅱ約55分 ・人形Ⅱ13

ちいさいお城 童話劇 五景……………サムイル・マルシャーク
大井数雄訳…二九

・時間Ⅱ約25分 ・人形Ⅱ動物7

■作者・訳者紹介

藤田 圭雄 * 児童文学評論家、童謡詩人、

日本児童文学者協会理事

小林 達夫 * 人形劇サークル作家

勝尾 金弥 * 金沢市小将町中学校勤務、児童文学者

小池タミ子 * 劇作家、日本放送作家協会会員

粉川 光一 * 東京都中央区東華小学校校長、学校演劇作家

森田 博 * 大阪市矢田中学校勤務、劇作家

富田 博之 * 日本演劇教育連盟常任委員

エム・ポリワノワ * ソ連の人形劇作家

渡辺 元 * 人形劇研究家

川尻 泰司 * 人形劇団ブーク代表、人形劇作家

須田輪太郎 * 人形劇団ひとみ座代表、人形劇作家

マトヴェーエフ * ソ連の人形劇作家

マルシャーク * ソ連の児童文学者

大井 数雄 * 人形劇団カラバス代表、人形劇研究家

藤田圭雄 作

ぞうのはなはなぜながい〈一幕〉

■時間 約12分

■人形 動物6

■あらすじ ぞうは、むかし、いまのように長いはなをしていなかった。ぞうの子は、聞きたがりやで、「なぜなの?」「どうするの?」と、なんでもきく。だちようや、さるは、うるさがっていつてしまう。へびは、おこつて、ぞうをなぐりつける。コロコロ鳥におしえられて、ぞうは、わにのところへ行き、「わには何をたべるの?」ときく。わにはぞうのはなに食いつき、はなをひっぱるの
で、ぞうのはなはのびてしまう。小さい子によるこばれる「なぜな
ぜばなし」の人形劇化である。(幼児／小学校低学年向)

△人形デザイン／青木敏子▽

でるもの

ぞうの子

へび

わに

コロコロ鳥

だちよう

さる

だちよう これはこれは、さるのおくさま、おはようござ

います。

さる まあ、だちようのおくさま、いいお天気で。お買

物でございますか。

だちよう はあ、ちよつと……。

さる あ、おくさま、きのう、あのぞうの子におあい

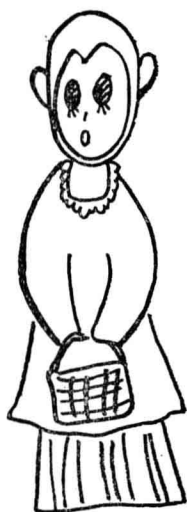
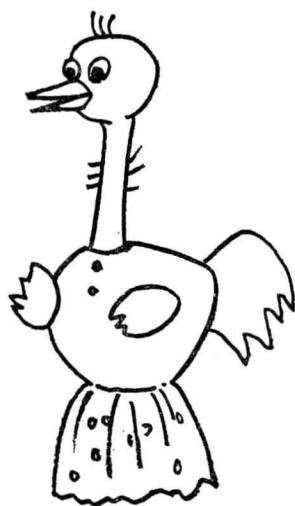
なりませんでした？

だちよう あいしましたも、あの、ききたがりやでござ

いまして。ほんとにうるさくて、こまってしまいました

たわ。

さるほんとにね。あの子はまったく、どうしてあんな



んでもかんでも、ききたがるんでございまして。ね。
きのうはね、わたくしにむかって、おばさんおばさん、
うりつてものはどうしてあんなに水っぱい？ なんて、
こうでございましてよ。

だちよう あ、わたくしにはもっとひどいことをもう
しましたわ。……あら、ききました。むこうか
ら、ほら、ききたがりやのぞうの子がきましたよ。

さる あら、ほんと、またうるさいから早くあっちへ行
きましょう。

だちようとさる、上手へ行こうとする。下手からぞ
うの子、登場。ぞうととっても、はなはそんなに長
くない。せいぜい長靴ぐらいの、黒っぽい、ぶくぶ
くしたのをぶらさげている。

ぞうの子 おばさん、おばさん。なんだ、行っちゃった。

おとなってものはどうしてみんな、あんなにいじがわ
るいんだろう。ぼくがなにかきこうとすると、いつで
も、うるさいとか、あっちへ行け、なんていって、け
つとぼしたり、ぶったりするんだ。ほんとにいやんな
っちゃう。……でも、ぼく、きょうはせひききたいこ
とがあるんだけどなあ。だれかおしえてくれないかな
あ。……あ、あの木の上にコロコロ鳥のおじさんがい
る。あの人にきいてみよう。もしもし、コロコロ鳥の
おじさん。

コロコロ鳥 なんだい。



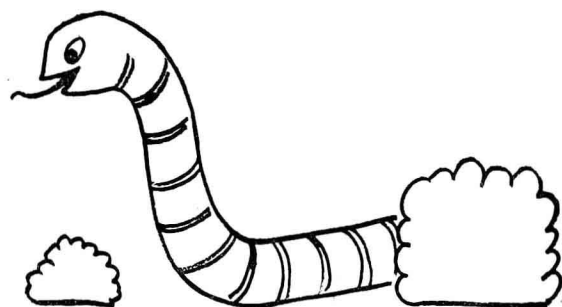
ぞうの子 あのね、ぼく考えたんですけどね、いったい、
わにってどんなもののなの？　そして、いつもなにをた
べているの？　おとうさんにきけば、うるさいってけ
つとばされるし、おかあさんにもつきとばされるし、
ほうほうのおじさんやおばさんがみんないじわるする
んだけど、でも、わにがなにをたべているのか、ぼ
く知りたいんだよ。

コロコロ鳥 わにがなにをたべているかって？　それは
わにのところへ行っていくのがいちばん早いじゃない
か。

ぞうの子 あ、そうですね。

コロコロ鳥 このずうっとむこうの、大きな木のしげっている大川の土手まで行って、川の中のわににじかにきいてごらん。

ぞうの子 ありがとう、コロコロ鳥のおじさん。じゃあ、ぼく、行ってききます。



コロコロ鳥はどこかへ行ってしまおう。ぞうの子は、舞台をあとちこつち、ぶらぶらあるきまわる。ときどき「ああ、あつ」とか「まだかな」とか「ああ、くたびれた」などという。やがて上手の前のほうにきて立ちど

まる。

ぞうの子 (下手のおくのほうを見て) ああ、きたきた。やっときたぞ。わあ、すごい川だなあ、まるで海みたいだ。むこう岸が見えやしない。さて、わにはどこにいるのかな。

下手から、へびが出てくる。

ぞうの子 おや、あれはへびのおじさんだぞ。そうだ、あのおじさんにきいてみよう。……もしもし、へびのおじさん。

へび なんだ。

ぞうの子 ちょっとくがいますが、このへんに、わにってものがいるでしょうか。

へび なに？ わにがいるかって？ いたらどうするんだ。

ぞうの子 ああ、ぼく、わにがなにをたべるのか、それを見にきたんです。

へび ばか！ そんなことをきいてどうするんだ。

へびはいきなり、ぞうの子の顔をなぐりつけて、そのまま土手のそばでねてしまう。

ぞうの子 おやおや、ここいらのやつも、人がものをきくと、やっぱりなぐりつけるよ。

下手から、わにがぬっと顔を出す。

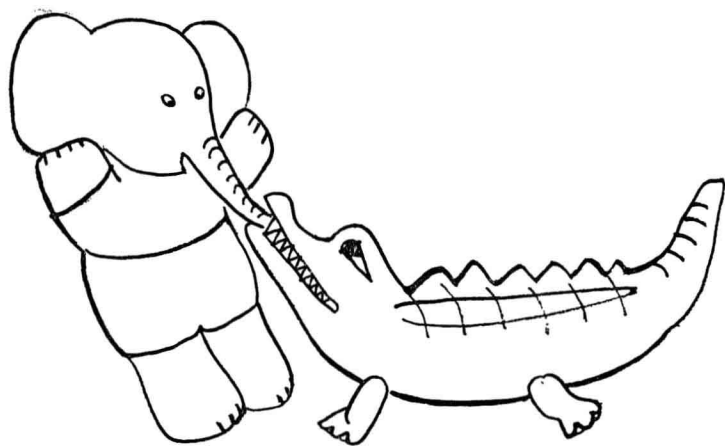
ぞうの子 おや、へんなものが出てきたぞ。あれはなんだろう。そうだ、ひとつあれにきいてみよう。……もしもし、ちよつとうかがいますか？……

わに なんだ。

ぞうの子 あの、あなたはなぐりませんか。ぼくがなにかきいても。

わに うん、なぐらないからなんでもきいてごらん。

ぞうの子 ああ、よかった。じゃあ、うかがいますか、この川にわにがいるでしょうか。



わに　なんだ？　わにがいるかって？　ばかだね、おまえは。いったいなんだってそんなとぼけたことをきくんだい。

ぞうの子　だって、うちのおとうさんやおかあさんや、だちようのおばさんやさるのおばさんなんぞにきくと、みんなびしびし、けったりぶったりするんです。だから、ぼくは、わににじかにあつてきこうと思ってやってきました。

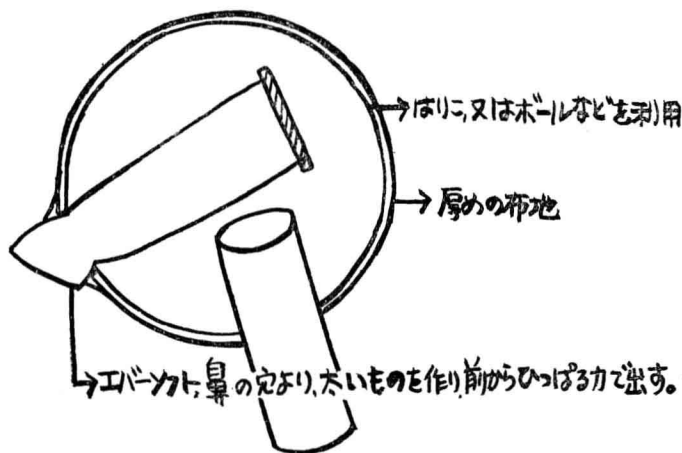
わに　あつてなにをきくんだい？

ぞうの子　わにはなにをたべて生きているのか、それがききたいんです。

わに　じゃあ、もっとこつちへおいで。おれが、その、わにだ。

ぞうの子　えっ、あなたがわにさんですか。ああ、よかった。ぼくは遠くからあなたをさがしてここまで来たのです。おしえてください。あなたはまいにち、なにをたべていらっしゃるのです？

わに　よし、おしえてあげよう。だけど、これはないしよのことだ。ほかの人にきこえろたいへんだ。そっ



*これは片手使いのための簡単な一例ですが、スプリングを使う方法や両手使いの場合に、支点をきめて胴車のところの指で調節する方法など、いろいろ考えてください。

と話してあげるから、もっとそばへおいで。

ぞうの子 はい、はい。

ぞうの子は、ほくほくよろこびながら、わにのそばへ行く。わにはいきなり大きな口をあけて、ぞうのはなにかみつく。

ぞうの子 あ、たたたた、いたいいたい。はなしてよう。

わに ばかめ。おれがなにくっていようとおれのかつてだ。きょうからぞうのはなをくったって、おれのかつてだ。

ぞうの子 ごめんなさい、ごめんなさい。あ、い、いたいいたい。はなして、はなしてよう。

ねていたへびが、のそのそと出てくる。

へび おい、早くあとへさがれよ。ぐずぐずしていると、あのわにのやつに川のまんなかまでひっぱって行かれるぞ。深いところへいったら、ぶくぶくとおだぶつた

ぞ。そら、ううんとひっぱるんだ。

ぞうの子 ようし、ううん、ちきしょう。

わに ううん、ううん。

ぞうとわにと、ひっぱりっこをする。そのため、今まで長靴ぐらいの長さだった黒っぽいはながどんどんのびて行く。

ぞうの子 ううん、ううん、あいたたた。

へび そら、しっかり、だめだぞ。すこしぐらいいたくてもがまんするんだ。ほら、ずるずるひっぱられるじゃあないか。しっかり。よし、おれも手つだつてやる。ほら、よいしょ。

へびはぞうの子のうしろから加勢してひっぱる。

へび いいか、そらこい。わっしょい、わっしょい、わっしょい。

ぞうの子 ふうふう、いたいいたい。うん、うん。

わにはとうとう負けて、ぞうのはなをばなす。ざぶんと水の音がする。ぞうとへびは舞台のまんなかに、どしんとひっくりかえる。

ぞうの子 あ、たた、うんうん。

へび どうだ、おれのおかげでおぼれずにたすかっただろう。

ぞうの子 ど、どうも、あ、ありが、とう。いた、いた。た。ああ、いたい。

へび でも、死ぬよりはましさ。

ぞうの子 は、はなが、はながこんなにぶかっこうにひてしまった。どうしよう。こんなはなをしてうちにかえったら、みんなからわらわれてしまう。(泣き出す)

へび ばかだね、この子は。泣かないでよく考えてごらん。今まで草をたべるのにどうしていた？

ぞうの子 しゃがんで口でたべました。

へび その長いはながあれば、いちいちしゃがんだりしないでもすむぞ。

ぞうの子 なるほど、これはべんりだ。

へび 木の上のバナナだってとれるぞ。

ぞうの子 そうだ。今までは、うれておっこってくるのをまっていたんだけど、もう、そんなことをしなくっても、このはなをのばせばとれるぞ。

へび そうさ、水だってはなですいあげればいい。

ぞうの子 すてきなあ。

へび だれかがいじわるをしたら、そのはなでぶつてやるさ。

ぞうの子 そうですね。うれしいなあ。ぼくはもうだれにも負けないぞ。ぼくにいじわるをするやつは、みんなやつつけてやる。うれしいなあ。

ぞうの子 ゆらりゆらり

長いはな

朝風 ふわりふわり

青い空

ぞうのはなは ぞうの子の

おともだちよ

ぞうのはなで ぞうの子は

うたってるよ

ぞうの子 うつらうつら

おひるねよ

夕風 そよろそよろ

にじが出た

——おわり——

【上演の手引き】

① とにかく、自分の知らないことを知りたいという気持ち
は、誰にでもあることです。どうして、ぞうの鼻はながいのだ
ろうと、わたしたちが考えるのとおんなじように、ぞうの子ど
ももわにはいつたい何を食べて生きているのか知れたかったの
だとおもいます。

ところで、自分の知っていることなら、人にきかれば親切
におしえても何も損をすることもあるまいとおもうのですが、
だちようのおばさんや、さるのおばさんの考えは、どうやらす
こしちがうようです。

ほんとうは知っていて、人におしえるのがめんどろなのか、
あるいは、知らなくて、知らないのをごまかすためにうるさい
といって追っばらうのか、そのどちらかはつきりわかりません
けれども、どうも後者のような気がしてなりません。そんな大
人たちが、いや大人たちばかりではなく、子どものなかにも、
そんな人がいないとは言いきれません。

② コロコロ鳥のおじさんは、さるやだちようのおばさんたち
とちよつとちがうように見えます。とにかく、わにのところへ
行ってきくのがいちばん早いと言って、わにの住んでいる川を
おしえてくれます。しかし、そこへ行けばわにに食べられるか

もしれないきけんについては一ひとの注意もぞうの子どもにあたえません。おそらくコロコロ鳥は、わにのこわさについて知らなかったのようですが、やはり、むせきにんにおもわれて仕方ありません。

むろん、根はいい人なのでしょうが。ではへびのおじさんはどうでしょうか。はじめに、ぞうの子どもがわににがいるかどうかをきいたとき、なぐりつけたのは、どういうつもりだったのでしょうか。へびのおじさんもやはりほかの人たちとおんなじように、子ぞうがうるさかったからでしょうか。どうもそうではないようです。わにに鼻をかまれて川へひきずりこまれそうになったぞうの子どもをばげまして、あぶないところをたすけたのは、ほかならぬへびのおじさんだったのですし、長くなつた鼻をみてなぐくぞうの子どもに、長けりやそれなりのべんりさがあるさ、と言って「わざわいを転じて福とする」よう力づけたのも、へびのおじさんだったからです。

たぶん、へびのおじさんは、ぞうの子どもに、そんなときいてどうするといつてなぐりつけたのは、わにのこわさとわるがしさをよく知っているのだ、ばかなことはやめろというちゅうこくだつたのでしょうか。それは、しかし、知りたい気持ちでいつばいのぞうの子どもにはわからなかったのだとおもいます。ぞうの子どもは、このこわいけいけんから、何かを知るといふことには、ときに、自分の身をきけんにさらさなければならぬということもあるのだということを知つただらうとおもいます。

③ でてくる人形は、布のぬいぐるみでつくくることにするとよいでしょう。ぞうの子どもは、さいごに鼻がなくなるので、ちよつとくふうを要します。絵にあるように、はじめから頭のなかにしまいこんでおくし、かけをつくつておくといよいでしょう。そのためには、頭をつくるときに、なかがからっぽのまるいもの（ボールなど）をつかつて、布をそのうえにはりつけてくるようにします。わにはからだのなかをあけて、手を入れられるようにし、大きな上あご下あごをおもしろくつかえるようにします。

ぞうの鼻にかみつくときなど、その動きをうまく使います。へびは、うでまですっぽり入れるようにふくろにつくり、うでのつかいかたでへびのくねくねした感じを、だすようにします。コロコロ鳥はかわらひわのことです。ながい棒をつけてつかうようにつくりましょう。さるとだちようはぼうしをかぶせてみたり、着るもので、性格を出すこともかんがえられます。

④ 舞台は、なるべくかんたんにしてうごきやすいようにします。前面にボール紙のきりだしの草があつて、木を二、三本ならべます。わにのすむ川は左手にきりだして川の流れをつくり、その前後に上手と草むらがあるといったものでよいでしょう。

△手島修三▽